

中学校

教科【国語】

単元【投書を書こう】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合うことを通して、多様な読み手に対して自分の考えが分かりやすく伝わる表現に文章を整える。

ICT活用のポイント

文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲することで修正の履歴を残すことができる。

使用するICT機器	PC、タブレット等	使用するアプリ・クラウドサービス等	Googleドキュメント、フォーム等
クラウドの活用	☒ 教材の配布・回収等 ☒ 生徒の学習状況の把握	☐ 資料等の共有 ☐ その他（ ）	
本時のねらい	読み手を意識しながら投書を推敲する。		
	主な学習活動（学習場面）	ICTの活用・留意点等	評価
導入	○前時の振り返りをする 一斉	 クラウド上に保存した下書き原稿や板書等を見ながら、前時の学習内容を振り返る。 クラウド	 
	○本時の目標を確認する 一斉	 教師が作成した推敲例を見ながら、本時は読み手を意識しながら投書の下書きを推敲することを確認する。 ICT機器	
展開	○推敲する 個別	 前時に考えたことを基にGoogleドキュメントの「提案」モードを用いて、修正の経過を残しながら自分の投書の下書きを推敲する。 ICT機器 指針2 指針3	 ここで評価 【思】多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現で文章を書くことができる。
	○提出する 個別	 コメントや校閲機能による修正の経過が残っているデータをクラウド上に保存して、教師に提出する。 クラウド	
		 提出後、希望者は、修正の経過を消して清書したデータを、新聞社のウェブサイト等から投稿してもよいこととする。 指針4	
終末	○単元の学習を振り返る 個別	 目的や意図に応じた表現に整えるために、どのように試行錯誤したのかを振り返り、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしたいかを考え、Google フォームに入力する。 クラウド 指針6	
		 （生徒集計結果を教師が確認）	

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度